

2015年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、極うずは大西洋側で平年より強かった。東シベリアからアラスカにかけては正偏差となった。北米では西部でリッジ、東部でトラフが明瞭だった。南アジアから太平洋中部にかけてのジェット気流は平年と比べて南偏した。シベリア高気圧は平年と比べて弱かった。アリューシャン低気圧は平年の位置の南東側で強かった。

熱帯の対流活動は、太平洋西部、北太平洋東部で活発、インドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬から中旬にかけて太平洋東部から南米、インド洋を東進し、下旬は不明瞭だった。対流圏下層の赤道域では、上・中旬は太平洋西部で、下旬は太平洋中部で西風偏差が明瞭だった。対流圏上層では、太平洋中部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+0.1だった。

世界の天候

2015年2月の世界の月平均気温偏差は+0.25°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.76°C/100年（速報値）である。

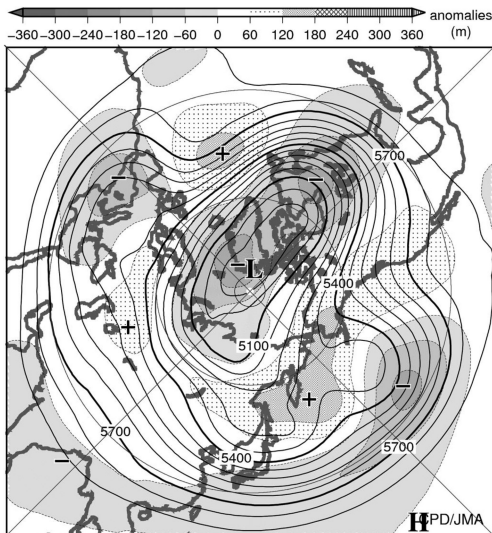
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア南部及びその周辺では異常高温となった。
- 中央アジア南部及びその周辺では異常多雨となった。
- カナダ南東部～米国東部では異常低温、米国西部及びその周辺では異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

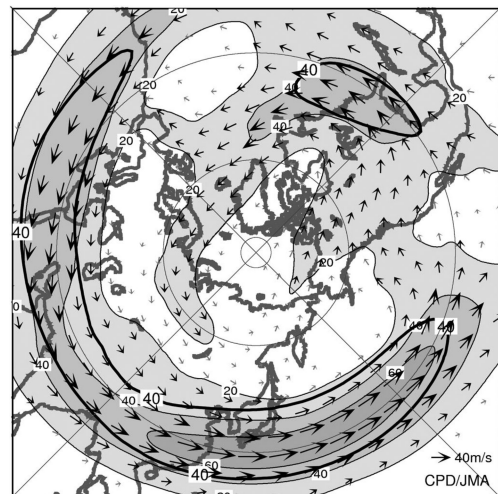
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



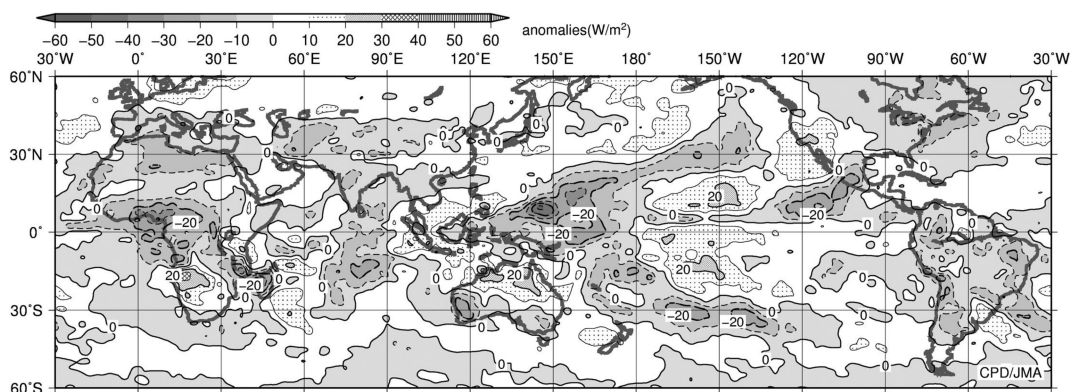
2015年2月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

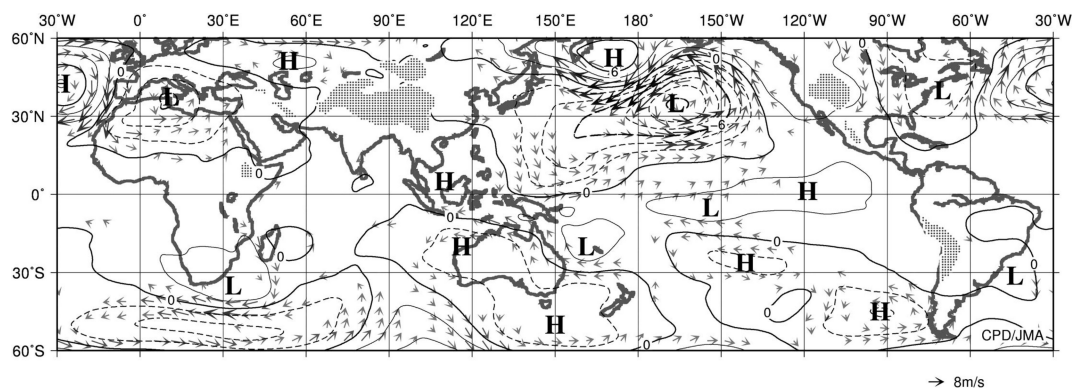


2015年2月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

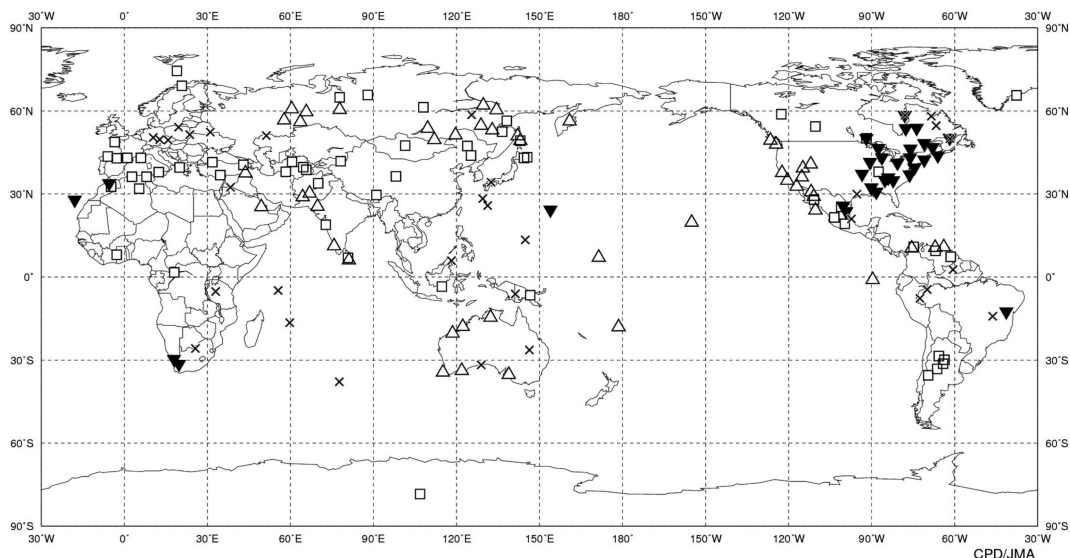
等値線間隔は20 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



2015年2月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年2月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。